

# 弥生時代のむら－お墓

人が亡くなると、お墓をつくりま

それは今も昔も変わらない光景で、弥生時代も例外ではありません。

当時のお墓は、どのようなものだったのでしょうか？

## お墓の種類

まず穴を掘ります。

そして亡くなった人を

①そのまま埋める

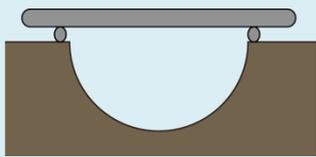
→土壇墓

②棺に入れて埋める

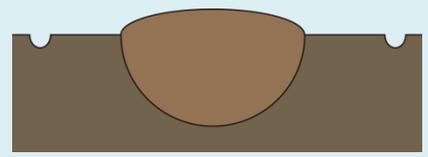
→石棺墓・木棺墓

③甕に入れて埋める

→甕棺墓



その他の形式として



④石を置き、天井石を乗せて埋める

→支石墓

⑤穴を盛土状にして埋める

→墳丘墓

墳丘墓は、マウンド（大きな盛り土）にひとを葬ったものです。

弥生時代はじめ頃のもの、家族や同じむらの人々の共同のお墓としてつくられていましたが、時代がたつにつれて有力者の力を示すものへと変わっていき、副葬品（お供え物）が供えられるようになります。これが、のちの時代の古墳へとつながっていきます。

## ポイント

有力者は、普通の人と比べて豪華に葬られています。

また、弥生時代のお墓は、むらから離れたところにつくられる傾向があります。